

会員各位

2015年1月
日本化粧品技術者会東京支部

第268回「学術講演会」のご案内

新春の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。会員の皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じます。

さて、今回は下記の日程にて、2題のテーマで「学術講演会」を開催いたします。

1 題目は、『**集めて作る機能ナノ構造:ドラッグデリバリー／遺伝子導入からセシウム検出まで**』というテーマで独立行政法人物質・材料研究機構 有賀克彦先生にご講演いただきます。

2 題目は、『**求められる感染症対策 ～国内および世界の経験をふまえて～**』というテーマで、独立行政法人地域医療機能推進機構 尾身茂先生にお話しいただきます。

講師略歴をご覧いただくとわかりますように、世界的に活躍されているお二人のご講演です。皆さまお誘い合わせの上、多数ご来聴いただきますようご案内申し上げます。(学術部会A)

記

1. 日時 : 2015年2月20日(金) 13:30～16:30 (13:00～ 受付開始)
2. 場所 : 学士会館(神田) 3F-320号室 (地下鉄神保町下車;参加申込書略図参照)
東京都千代田区神田錦町3-28 TEL;03-3292-5936
3. 講演
【講演-1】 13:30～14:55

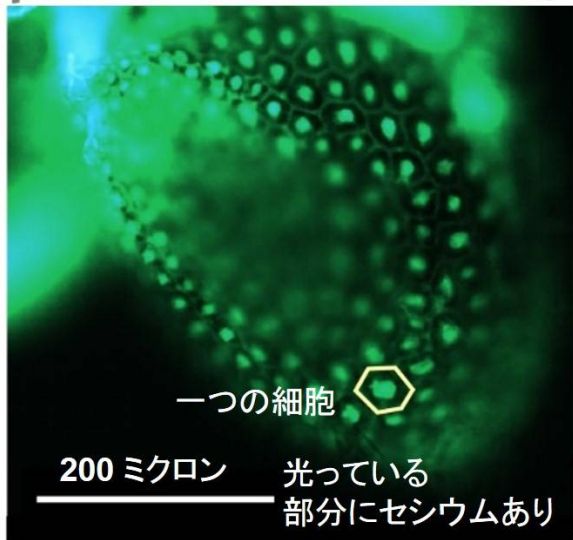
集めて作る機能ナノ構造:ドラッグデリバリー／遺伝子導入からセシウム検出まで

独立行政法人物質・材料研究機構 有賀 克彦 氏

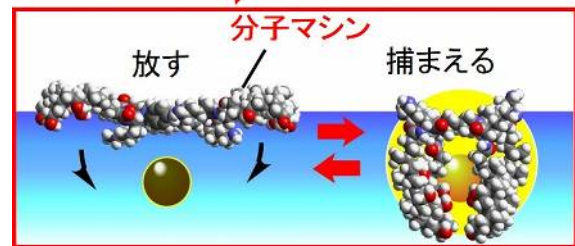
[要旨]

ナノテクは最先端の難しい科学技術ですが、それをいかに簡単に成し遂げるかが、その技術を一般に広げるためには重要です。従来の高度なマイクロファブリケーションに頼った技術ではなく、分子やナノ物質が自発的に集合したり、その過程を制御したりすることに機能ナノ構造をつくる新しいナノテクの試みが必要です。例えば、かき混ぜたり、濾過したりするだけでナノメートルサイズの孔を持つ材料を作る技術。耳かき一杯でテニスコート一面の表面積ができます。自発的にできるシリカナノ構造の表面から細胞に遺伝子を導入する技術、自発的にできるカプセルからのドラッグデリバリー、振りかけるだけで見えないセシウムイオンが光り出す技術(次頁図)を紹介します。また、世界で唯一の技術である「Hand-Operating Nanotechnology, 手で操るナノテク」という手法(次頁図)を用いて、分子マシンを手で自由に操る手法などについても紹介します。

細胞内でセシウムを見つける



分子マシンを手で動かす



[講師略歴]



Katsuhiko ARIGA, Dr., Prof.

Affiliation: World Premier International (WPI) Research Center for Materials Nanoarchitectonics (MANA), National Institute for Materials Science (NIMS)

Major Fields: Supramolecular Chemistry, Surface Science, and Nanomaterials

Biography:

- 1987 Master Degree (Tokyo Institute of Technology)
- 1990 Doctor Degree (Tokyo Institute of Technology)
- 1987-1992 Assistant Professor (Tokyo Institute of Technology)
- 1990-1992 Postdoctoral Researcher (University of Texas at Austin)
- 1992-1998 JST Group Leader (Supermolecules Project) and CREST Researcher
- 1998-2001 Associate Professor (Nara Institute of Science and Technology)
- 2001-2003 JST Group Leader (Nanospace Project)
- 2004- Director of Supermolecules Group, NIMS
- 2007- Principal Investigator, MANA, NIMS,
- 2008- Visiting Professor (Tokyo University of Science)
- 2011- Visiting Professor (Warsaw University of Technology)

Editorial Activity:

- Editorial Advisory Board Member of *Advanced Materials*
- Editorial Advisory Board Member of *Chemistry of Materials*

Editorial Advisory Board Member of *Langmuir* (- 2014)
Editorial Advisory Board Member of *ACS Applied Materials & Interfaces*
Associate Editor of *Physical Chemistry Chemical Physics*
Associate Editor of *Science and Technology of Advanced Materials*
Associate Editor of *Journal of Oleo Science*
Section Editor of *Chemistry Letters*
Section Editor of *Bulletin of Chemical Society of Japan*
Asian Editor of *Journal of Nanoscience and Nanotechnology*
Asian Editor of *Advanced Science Engineering and Medicine*
Asian Editor of *Nanoscience and Nanotechnology Letters*

Awards and others:

- 2010 Nice-Step Researcher 2010 (National Institute of Science and Policy, Japan)
ナイスステップな研究者
- 2011 ISCB Award for Excellence 2011 (Indian Society of Chemists and Biologists)
- 2013- Fellow of The Royal Society of Chemistry
英国王立化学会フェロー
- 2014 Highly Cited Researcher in Materials Science 2014 (Thompson Reuter)
One of world's most influential researchers.
世界で影響力のある科学者(日本で全分野約100人、物質科学8人)
- 2014- 世界経済フォーラム Global Agenda Councils (Nanotechnology) Member (日本で唯一)

Number of Paper: ca. 500

Citation: ca. 20000

H-Index: 74

(September, 2014)

【講演-2】 15:05～16:30

求められる感染症対策 ～国内および世界の経験をふまえて～

独立行政法人地域医療機能推進機構 尾身 茂 氏

[要旨]

演者は世界保健機構(WHO)に20年間勤務し、アジアでのポリオ根絶、SARSの制圧、さらに結核の対策などに個人的に関与してきました。帰国後、日本政府新型インフルエンザ対策本部委員長、東京都のデング熱対策会議座長などを務めております。こうした国内外での感染症対策の経験を基に皆様にお話したいと思います。

[講師略歴]

現職:

- ・独立行政法人 地域医療機能推進機構 理事長
- ・名誉世界保健機関(WHO) 西太平洋地域事務局長
- ・自治医科大学客員教授
- ・厚生労働省参与
- ・内閣府 「野口英世アフリカ賞」委員会 委員
- ・医療功労賞選考委員(読売新聞)
- ・内閣官房新型インフルエンザ等対策有識者会議 会長
- ・東京都蚊媒介感染症対策会議 座長

職歴:

- 1978年 自治医科大学卒業(一期生)
- 1978-1987年 東京都立墨東病院に於いて多科ローテート臨床研修修了後、伊豆七島を中心に地域医療に従事。(東京都立広尾病院勤務を含む)
- 1987-1989年 自治医科大学予防生態学教室助手
- 1990-1998年 WHO西太平洋地域事務局にて拡大予防接種課長、感染症対策部長などを歴任(西太平洋地域の小児麻痺根絶対策などで陣頭指揮)
- 1999年 2月 第5代WHO西太平洋地域、地域事務局長
(SARS:重症急性呼吸器症候群の制圧及び各加盟国の地域医療対策や結核対策等で陣頭指揮)
- 2009年 2月 自治医科大学地域医療学センター教授に就任
- 2009年 5月 日本政府新型インフルエンザ対策本部専門家諮問委員会 委員長
世界保健機関(WHO)執行理事
- 2011年 5月 独立行政法人 国立国際医療研究センター 理事
- 2012年 4月 独立行政法人 年金・健康保険福祉施設整理機構 理事長
- 2014年 4月 独立行政法人 地域医療機能推進機構 理事長に就任

受賞等:

- 2000年 12月 ベトナム名誉国民賞 受賞
(ベトナム国民の保健衛生向上への貢献に対して同国政府より授与)
- 2001年 10月 第37回 小島三郎記念文化賞 受賞
(WHO西太平洋地域からの小児麻痺根絶への貢献に対し授与)
- 2002年 12月 香港地域医療学会名誉特別専門医
- 2004年 5月 慶應義塾大学特選塾員
- 2009年 1月 小児麻痺根絶特別貢献賞 受賞
(国際ロータリークラブより小児麻痺根絶への貢献に対し授与)

著書等:

- ・WHOをゆくー感染症との闘いを越えてー 医学書院
- ・SARS: How a global epidemic was stopped, ISBN 92 9061 213 4. WHO. 2006
(上記翻訳:SARS-いかに世界的流行を止められたか 財団法人結核予防会)
- ・Polio Eradication: Western Pacific Region, ISBN 92 9061 000 X. 2000
- ・『パンデミック(H1N1)2009ー我が国の対策の総括と今後の課題ー』
公衆衛生 Vol. 74(8) 医学書院 2010
- ・医の未来「医療の輪が世界を救う」P75-92 岩波新書
- ・地域医療と医療職の展望. 公衆衛生. 72(8):614-617, 2008

第268回 学術講演会(開催日:平成27年2月20日)参加申込書

日本化粧品技術者会東京支部 事務局 行
(FAX:03-6431-9126)

参加者 氏名	該当に○ : 正会員、正会員の代理、準会員、シニア会員、相談役・顧問
	代理参加の方は、正会員の方のお名前もお書きください
	正会員名
会社名	
連絡先	TEL:
	FAX:

◇ 申込方法

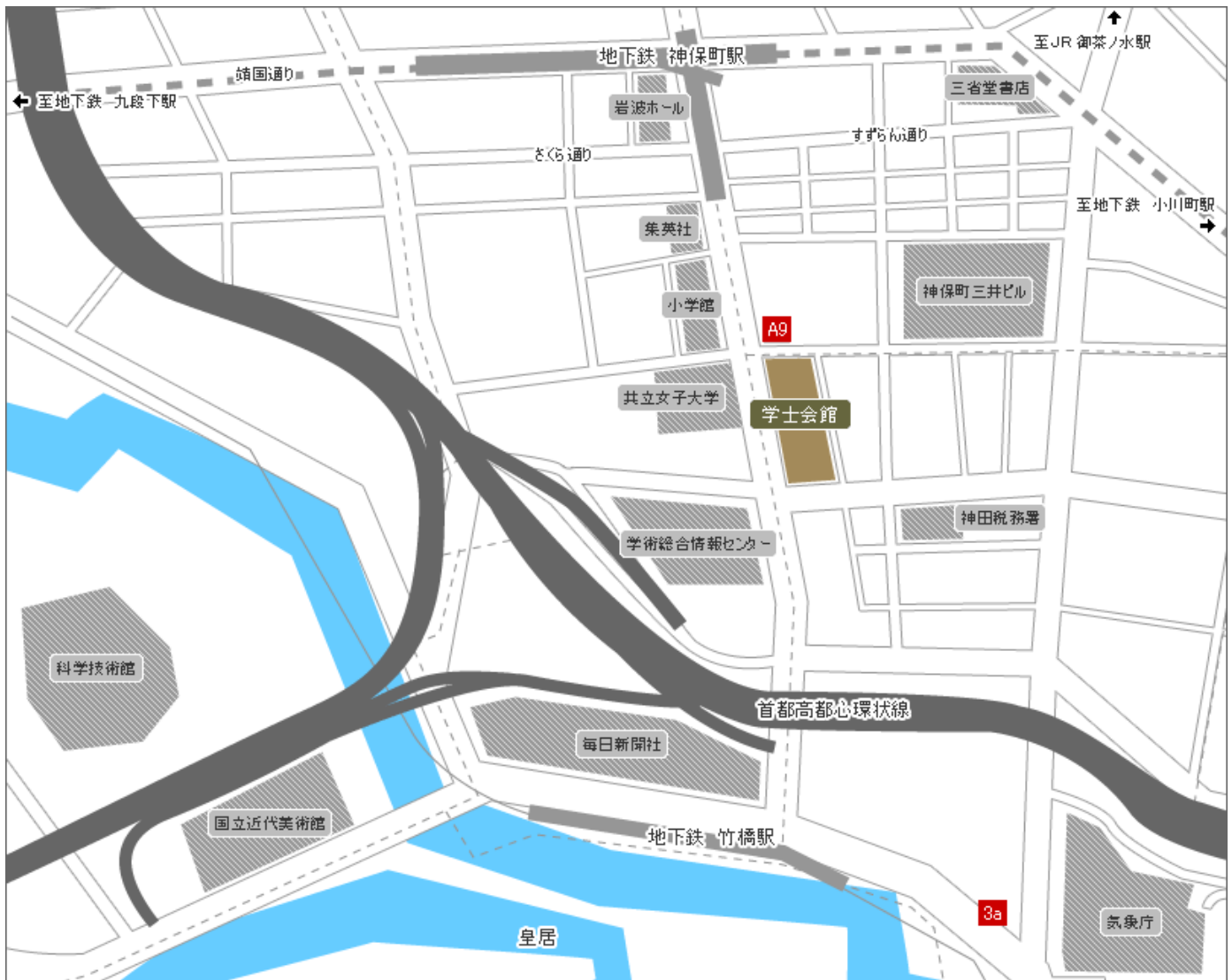
- 本申込書を事務局(03-6431-9126)にFAXして下さい。
(まれに、裏面の会場案内図をFAXされる方がいらっしゃいますのでご注意ください)
- 参加費は無料です。
- 参加証は発行しませんので、特に事務局からご連絡(定員でお断りする場合)がない限り、参加可能です。
- なお、正会員の代理者(1名)の参加は可能ですが、準会員、シニア会員の方はご本人のみ参加可能です。

申込締切日:2月13日(金)(厳守)

会場定員になり次第、締切らせていただきますので、お早めにお申込下さい。

◇ お問い合わせ先 日本化粧品技術者会事務局(東京支部)(TEL:03-6431-9196)

◇ 会場(学士会館)略図



学士会館

〒101-8459 東京都千代田区神田錦町 3-28

TEL.03-3292-5936 (代表)

【交通機関】

地下鉄都営三田線/都営新宿線/東京メトロ半蔵門線「神保町」駅下車 A9 出口
から徒歩 1 分

東京メトロ東西線「竹橋」駅下車 3a 出口から徒歩 5 分

「東京」駅 丸の内北口からタクシーで 10 分